

災害時の“食べる支援”における 多職種連携とその目的

報告書（第一報）



日時：平成29年9月16日（土） 18:00～20:00

会場：東京医科歯科大学 1号館7階 口腔保健学科第3講義室

後援

宮崎県
歯科医師会

宮崎
JRAT

女川歯科
保健チーム

歯科保健
研究会

話題提供：熊本地震の歯科支援の経験を地域に活かす

多職種協働に向けての取り組み ～地域から災害支援を見据えて～

後藤大（歯科医師，宮崎県歯科医師会，ごとう歯科医院）

一開業医として災害支援や地域にでて改めて気付いた，多職種協働について感じたこと，他団体とのこれまでの連携や，事例，今後の課題を交え報告させていただきたい。

災害時における食を支えるチームの役割 ～歯科と言語聴覚士の協働からみえてきたもの～

横山茂幹（言語聴覚士，宮崎JRAT，
日南市立中部病院リハビリテーション科）

平成28年熊本地震では，災害支援活動を歯科医師とともに実施した。今般，①実際の支援活動における食を支えるチームの役割，②宮崎JRATにおける受援者側の研修報告（宮崎県に地震がきた際の備え），③平時からの地域連携（Mind to mind）の重要性について再考する。

これからの災害時歯科支援 ～フレイル予防として～

中久木康一（歯科医師，日本歯科医師会熊本地震災害歯科
コーディネーター，東京医科歯科大学）

要介護高齢者などの要配慮者においては，災害後の整わない環境下でも口腔衛生管理が継続されないと，口腔感染症，そして誤嚥性肺炎の発症リスクが高くなると考えられ，災害時の歯科支援として口腔ケア活動が行われるようになっている。経験を踏まえ，これからの目的や体制はどうあるべきか，提起する。



災害時の“食べる支援”における 多職種連携とその目的

参加 無料 申込 不要 資格 不問

日時：平成29年9月16日(土) 18:00～20:00(開場17:40)
会場：東京医科歯科大学1号館7階 口腔保健学科第3講義室

主催：日本災害時公衆衛生歯科研究会
後援：宮崎県歯科医師会、宮崎JRAIT、
女川歯科保健チーム、歯科保健研究会

話題提供：熊本地震の歯科支援の経験を地域に活かす

多職種連携に向けての取り組み
～地域から災害支援を見据えて～
後藤大（歯科医師、宮崎県歯科医師会、
ごとう歯科医院）

災害時における食を支えるチームの役割
～歯科と言語聴覚士の協働からみてきたもの～
横山茂幹（言語聴覚士、宮崎JRAIT、
日南市立中部病院リハビリテーション科）

一関業医として災害支援や地域にでて改めて気付いた、
多職種協働について感じたこと、他団体とのこれまでの連
携や、事例、今後の課題を交えて報告させていただきます。

平成28年熊本地震では、災害支援活動を歯科医師とともに実施した。
今般、①実際の支援活動における食を支えるチームの役割、②宮崎
JRAITにおける受援者側の研修報告(宮崎県に地震がきた際の備え)、
③平時からの地域連携(Mind to mind)の重要性について再考する。

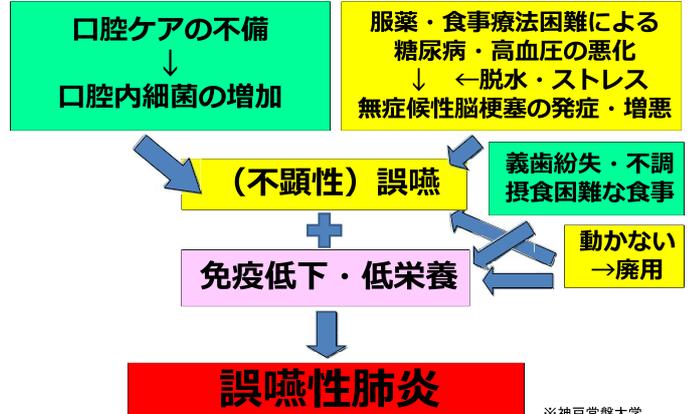
これからの災害時歯科支援 ～フレイル予防として～

中久木康一（歯科医師、日本歯科医師会熊本地震災害歯科コーディネーター、東京医科歯科大学）
紹介：高齢者などの要配慮者においては、災害後の整わない環境下でも口腔衛生管理が継続されないと、口腔感染症、そして誤嚥性肺炎の発症リスクが高くなると考えられ、災害時の歯科支援として口腔ケア活動が行われるようになってきている。経験を踏まえ、これからの目的や体制はどうあるべきか、提起する。

Discussion: これからの“食べる支援”における連携に向けて

指定発言：佐藤保（歯科医師、日本歯科医師会）、門井謙典（歯科医師、兵庫医科大学歯科口腔外科）、
久保山裕子（歯科衛生士、日本歯科衛生士会）、駒形朋子（看護師、東京医科歯科大学共同災害看護学）、
長俊子（歯科衛生士、全国行政歯科技術職連絡会）、笠岡（坪山）宣代（管理栄養士、JDA-DAT）、ほか

避難所肺炎の成因



※神戸常盤大学
足立了平教授提供資料

災害時要配慮者（要援護者）

平成25年6月 災害対策基本法改正

災害時要配慮者

防災施策において特に配慮を要する方（要配慮者）

高齢者・有病者
身体・知的・精神障害者
乳幼児・妊産婦
外国人
旅行者
等

避難行動要支援者

災害発生時の避難等に特に支
援を要する方
避難行動要支援者名簿の作成
を義務付け

多職種協働に向けての取り組み

～地域から災害支援を見据えて～



平成29年9月16日
災害時の“食べる支援”における多職種連携とその目的
東京医科歯科大学

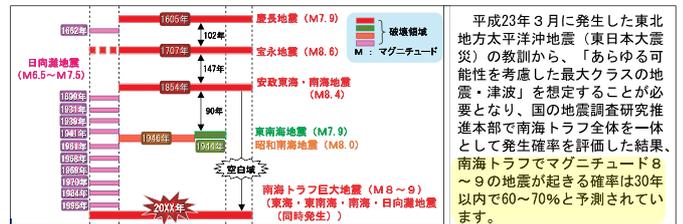
GOTO DENTAL CLINIC
後藤 大
ごとう歯科医院

多職種協働に向けての取り組み

～地域から災害支援を見据えて～

- 熊本地震を経験して気づいたこと
- 災害を通して地域ぐるみで出来上がりつつある連携について
- 熊本地震前後でできた歯科とリハビリ関連職種の方々との連携について

～宮崎市が巨大地震で被災すると！？～



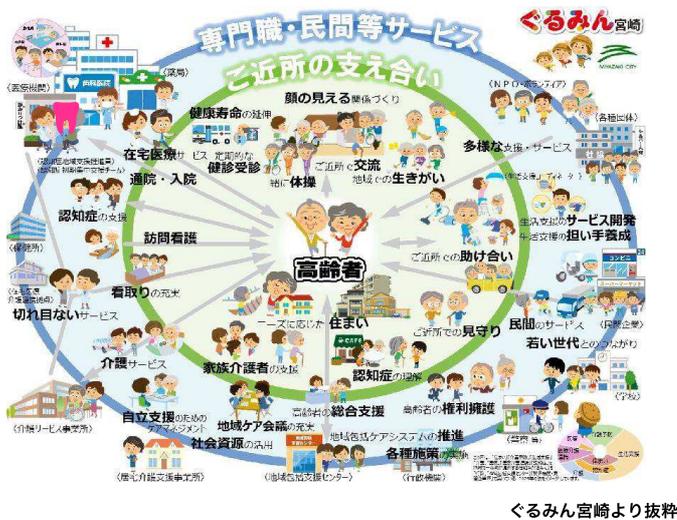
平成23年3月に発生した東北
地方太平洋沖地震（東日本大震
災）の教訓から、「あらゆる可
能性を考慮した最大クラスの地
震・津波」を想定することが必
要となり、国の地震調査研究推
進本部で南海トラフ全体を一
体として発生確率を評価した結果、
南海トラフでマグニチュード8
～9の地震が起きる確率は30年
以内で60～70%と予測されてい
ます。

予想される宮崎市を襲う津波

～ ⚠️ 地震発生後 最短約18分で津波が到達！！ ～

津波高 (m)		最短津波到達時間 (分)	浸水面積 (ha(ヘクタール)) 【浸水深毎】					
最大値	平均値	津波高1m	1cm以上	30cm以上	1m以上	2m以上	5m以上	10m以上
16	9	18	4,010	3,750	3,070	2,050	430	10

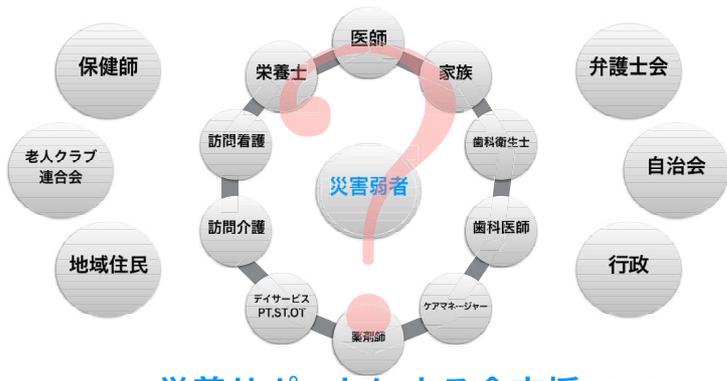
H25.12宮崎市作製 津波ハザードマップより抜粋



NST : Nutrition Support Team
栄養 サポート チーム
 現段階では全国の医療施設では積極的に
 設立されています。

医療施設退院後＝在宅・施設＝地域
 での栄養管理、食支援は・・・。
「地域包括版NST」「在宅食支援」
 という視点を持つことで
 安心して住み慣れた場所で暮していただけるのでは？

災害発生時には・・・。



日頃の**栄養サポートによる食支援**の視点
 を持つことで震災関連死を減らせる！？



災害が起こったから???

災害時ではなく、今とどう向き合うか！
 今自分の地域でできていないものが、
 災害時にできるのか？

ということで日頃よりの連携
 その1として

災害時の地域力向上研究会
 いろは会

顔の見える多職種連携やるなら
 多職種のことを知るところ
 から始めましょう！



9/9 (土) 第2回いろは会開催

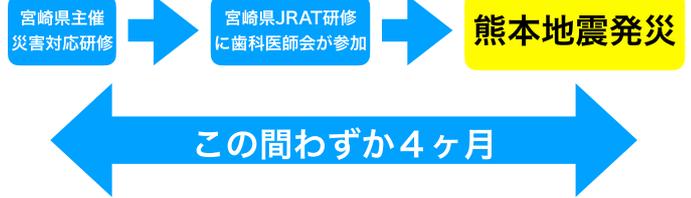


日頃よりの連携その2

～宮崎JRATと宮崎県歯科医師会の連携～

宮崎県歯科医師会
宮崎JRAT

宮崎摂食・嚥下臨床研究会



熊本地震発災



宮崎県JRAT災害支援報告会
歯科医師会災害支援報告会
栄養士会との合同研修会



宮崎JRAT災害対応研修
歯科医師会災害対策研修会



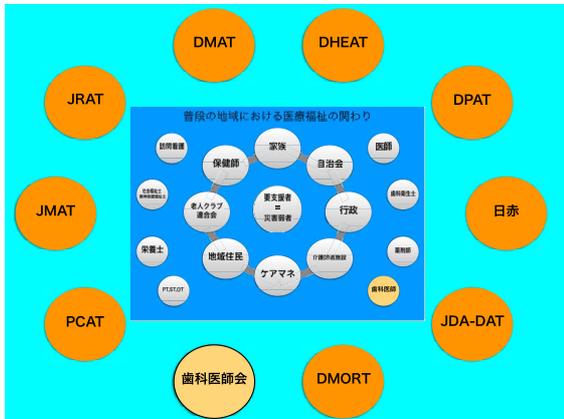
これからいつ災害が起こるかもしれない未来に向け今後も連携を！

仕事以外のことを普段から一緒になって
やっていくことも大事だと感じました！



8/27九州老年歯科フォーラムin宮崎 (来場者190人) にて
駐車場係をこの後講演される横山さんと2人でお手伝いさせていただきました^^

<災害支援に携わって感じたこと>



災害時においても普段の地域においても数多くある支援の中の1つの専門職種

いつか地域のどなたかのお役に立てるように!!!



地域の方々を含めた医療福祉関係の方々との専門職として
「繋がり続ける」ことが大事だと考えてます！

災害時における食を支えるチームの役割 ～歯科と言語聴覚士の協働からみえてきたもの～



2017. 9. 16(Sat) 宮崎JRAT 言語聴覚士 横山茂幹

初期活動チームによる見極めが重要



負傷者の救護

CSCATTT
Comand&Control
Safety
Communication
Assessment
Triage
Treatment
Transport

直接死の軽減

要配慮者の救護

CSCAHHH
Comand&Control
Safety
Communication
Assessment
Health care triage ヘルスケアトリアージ
Helping hand 援護させていただく
Handover つなぐ

震災関連死の軽減

Message

- JRATおよび宮崎JRATの活動概要
- 災害リハビリ支援活動における食を支えるチームの役割の理解
- JRATの現在の試み(平時からの連携を)

大規模災害リハビリ支援関連団体協議会



大規模災害

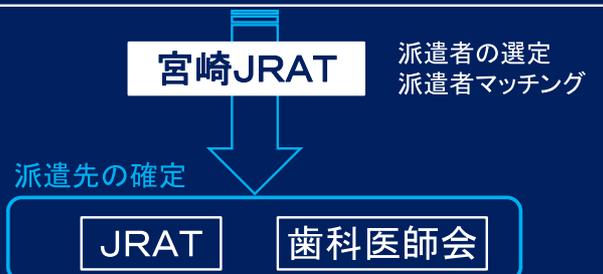
リハビリテーション
対応マニュアル

活動目的

- 人道的な支援活動である
- ボランティア活動である
- 被災地のニーズに沿った支援活動
- 地域での社会資源等に繋げる支援活動

派遣体制

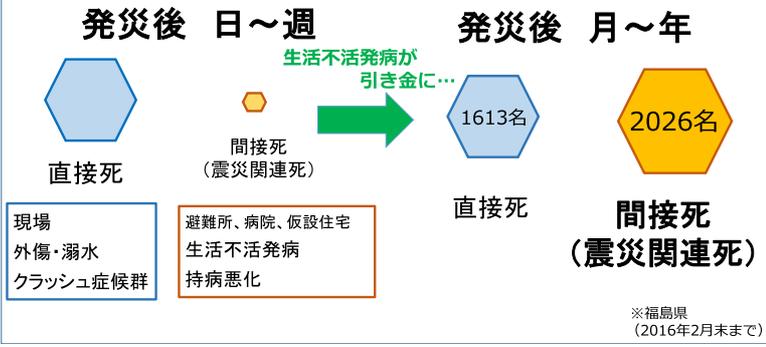
大規模災害リハビリテーション支援活動登録



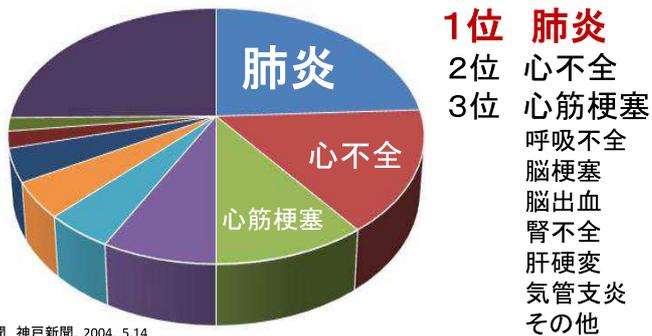
災害リハビリ支援について

- 大規模災害時には、DMAT(72時間)やJMAT(日本医師会医療チーム)、精神科チーム(DPAT)や**口腔機能支援チーム**など様々な医療支援チームが活動している。
- 2011年の東日本大震災時、生活不活発病が多く発生し、リハビリ・生活支援の重要性が認識され、**大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT)**の発足に至る。

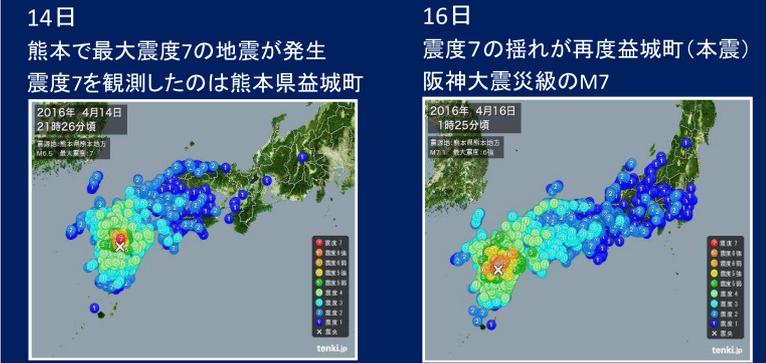
震災による死因



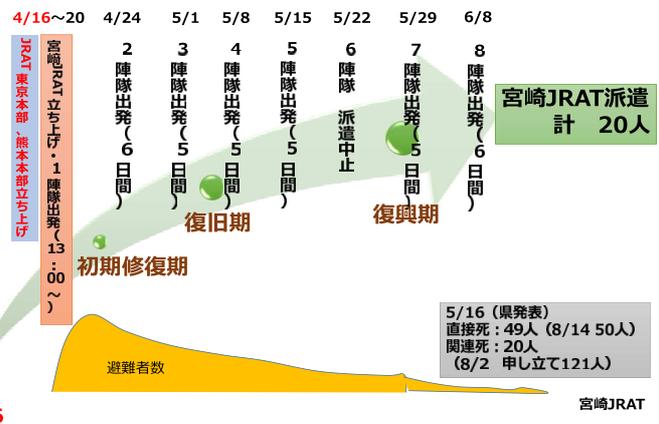
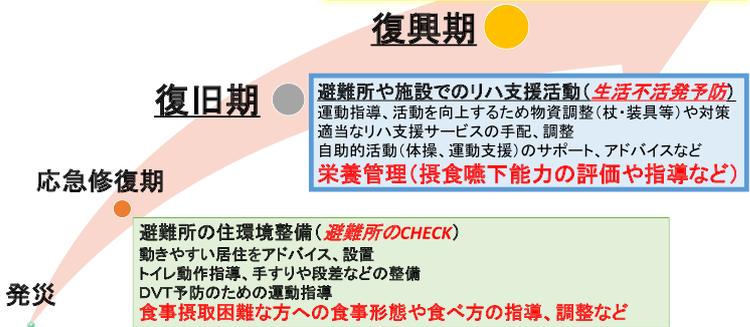
阪神淡路大震災の災害関連死



平成28年熊本地震(H28.4.14 21:26)



各フェーズの具体的な対応例



口腔機能支援チームの活動目的

Policy

- 地域住民支援
避難所等での口腔内トラブル支援
平時の歯科受診が困難な状況への支援
- 地元歯科診療支援
かかりつけ歯科機能を震災前に復旧



- * 第3陣 *
- ① 避難所でのアセスメントや口腔体操
 - ② 在宅訪問
 - ③ 福祉避難所(介護施設等)訪問

平成28年5月8～5月15日

福祉避難所(介護施設など)訪問班

Needs

- 断水地域、福祉避難所、地元歯科医師が訪問歯科診療していた地域
- 地元の歯科医師が再開し、機能を担えるまでの支援活動



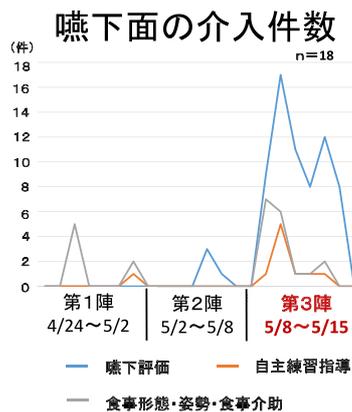
熊本県 人口 1,794,623名
要介護認定者(災害時要配慮者) 102,549名
要支援者 28,660名 要介護者 7,3889名
摂食嚥下障害者 14,777名
要介護高齢者の約20%が摂食嚥下障害者(深井, 2007)

南阿蘇 人口 10,883名
要介護者 446名
摂食嚥下障害者 89名

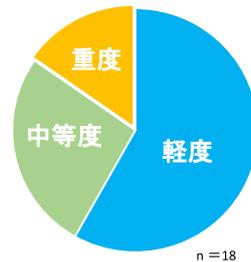
Result

歯科医師とSTの協働

約半数にST介入

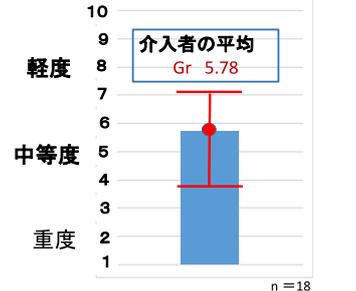


嚥下障害の重症度の割合

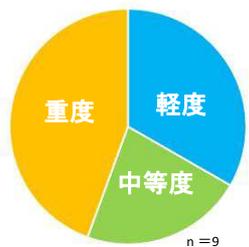


摂食嚥下能力Gr

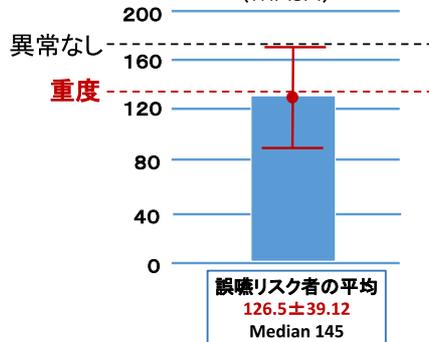
Gr 嚥下食を食べているレベル



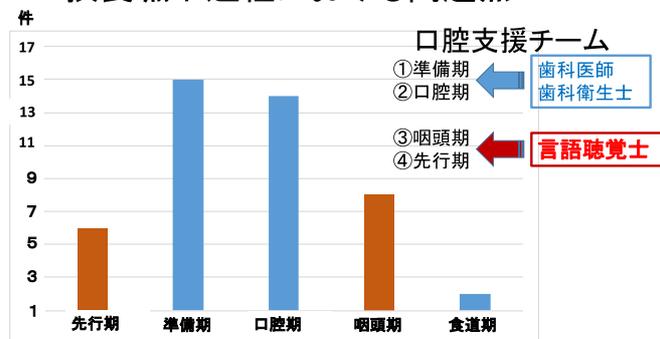
誤嚥リスク重症度 (MASA)



誤嚥リスク評価 (MASA)



摂食嚥下過程における問題点



●大規模災害後は、肺炎の罹患率が増加し、災害関連死が増加するとされる(Takakura, 1997 Aoyagi, 2013)。

歯科医師との口腔機能支援チーム 協働のStrength

- ①望ましいフェーズ(復旧～復興期)
- ②口腔機能支援チームが個人アセスメントレベルでのST介入
- ③摂食嚥下障害者への支援の質や幅
- ④地元の歯科医師へつなぐ働きかけ

地元歯科医師へつなぐ



共通ツール 現場での協働 地元歯科医師へひきつぎ

*** 地元の意向をふまえソフトランディングを目指す取り組み**



南海トラフ巨大地震

宮崎県の想定

- ◆ 地震規模：M9.0
- ◆ 最大震度：7
- ◆ 最大津波：17m
- ◆ 津波到達：14分



宮崎県の被害想定

- 建物 全壊 89000棟
- 人的 死者 35000人

2017.2.18 JRAT九州ブロック推進会議 in 佐賀大学医学部付属病院

隣県カバー制

～ まずは県内 次に隣県 ～

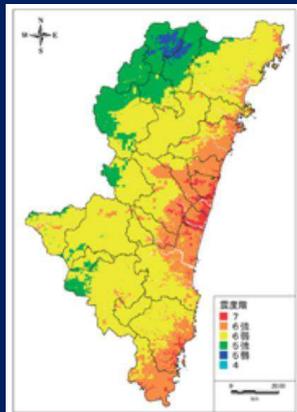
- 熊本県 ⇒ ★福岡(筑後)、大分、鹿児島
- 大分県 ⇒ ★福岡(北九州)、宮崎、熊本
- 鹿児島県 ⇒ ★宮崎、熊本、沖縄
- 宮崎県 ⇒ ★鹿児島、大分、熊本
- 長崎県 ⇒ ★佐賀、福岡、熊本
- 佐賀県 ⇒ ★長崎、福岡、熊本
- 福岡県 ⇒ ★熊本、佐賀、大分
- 沖縄県 ⇒ ★鹿児島、福岡、佐賀



宮崎JRATの研修

(2017.3.11～12)

- 受け入れ体制の演習 (ハザードマップをみながら)
- どこが事務局?
- 発災直後(初動体制)
- 発災から1～3日
- 発災から1週間
- 発災から1ヶ月～6か月



今後の展望

- ①医師会 歯科医師会 行政(県) JRAT
災害時支援の連携や保険体制の契約
- ②宮崎県言語聴覚士会の災害マニュアル作成
⇒宮崎JRAT(災害時のリハビリ支援団体)にて最終報告書完成
- ③災害リハビリテーション支援活動者の育成
⇒啓蒙活動や災害支援活動希望者を募る働きかけ
- ④平時からの多職種との連携作り(二次医療圏内外連携)
⇒平時から地域一体型栄養サポートチーム(NST)へ



災害時の“食べる支援”における 多職種連携とその目的

これからの災害時歯科支援 ～フレイル予防として～

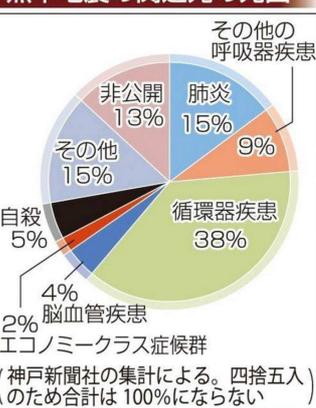
中久木康一
nakakuki@biglobe.jp

歯科医師
日本歯科医師会熊本地震災害歯科コーディネーター
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面外科学分野
(公社)日本歯科医師会災害歯科保健医療連絡協議会WG委員

2016/10/14 18:51 神戸新聞NEXT

熊本地震関連死、死因4割が循環器疾患 本紙集計

熊本地震の関連死の死因



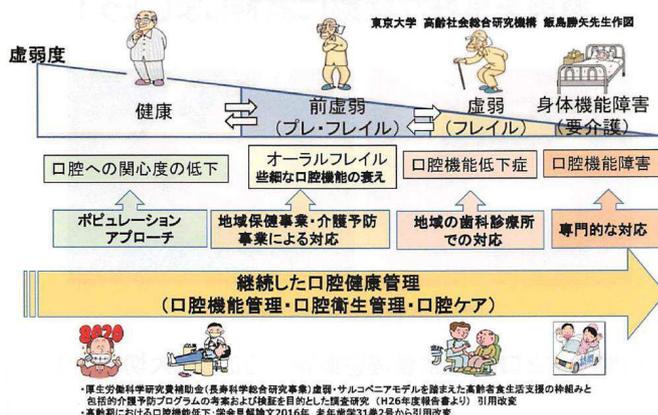
14日で発生から半年がたった熊本地震で、避難生活で体調を崩すなどした関連死が55人となり、直接死の50人を上回った。関連死の死因は急性心筋梗塞や急性心不全などの循環器疾患が少なくとも約4割に上ることが、神戸新聞社の集計で判明。過度のストレスは頻脈や血圧の上昇を引き起こし、心臓に負担を掛けることから、専門家は連続する余震や劣悪な避難環境が起因した可能性を指摘している。

熊本市、嘉島町、合志市、八代市、南阿蘇村は死因を明らかにし、計48人のうち21人が、急性心筋梗塞や急性心不全、内因性心臓死といった循環器疾患だった。真冬に起こった阪神・淡路大震災の関連死では感染症などからの肺炎が目立ったが、熊本地震では8人。自殺は3人だった。

歯科支援チーム 活動方針

- 地域歯科医療体制の 維持・回復
- 避難所等における被災者の 歯科保健管理
- 福祉避難所・施設等における要援護者の 口腔衛生管理
- 口腔感染症と誤嚥性肺炎の予防
- 「口から食べる」を守る支援
- 「口腔内細菌から体を守る」支援
 - 口腔のケア・・・口腔内細菌の減量
 - 口腔のケア・・・口腔機能(運動・うるおい)の保持

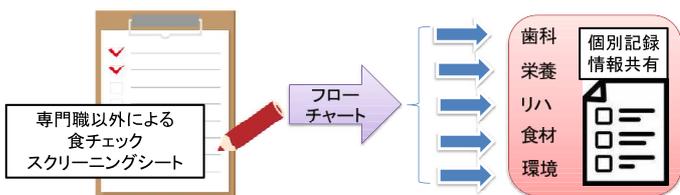
フレイルの段階における口腔機能の低下と 歯科診療所のかかわり



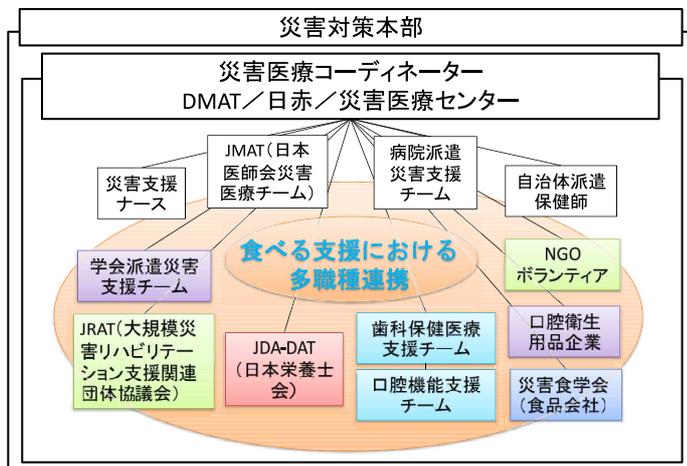
災害直後にオーラルフレイルに陥る場合



災害直後にオーラルフレイルに陥った人への 効率的アプローチ



災害時の連携



Discussion: これからの“食べる支援”における連携に向けて

発言者:

佐藤 保 (歯科医師, 日本歯科医師会)

久保山 裕子 (歯科衛生士, 日本歯科衛生士会)

笠岡(坪山) 宜代 (管理栄養士, JDA-DAT)

長 優子 (歯科衛生士, 全国行政歯科技術職連絡会)

駒形 朋子 (看護師, 東京医科歯科大学共同災害看護学)

藤 秀敏 (歯科医師, ホワイト歯科(宮城県多賀城市))

古屋 聡 (医師, 山梨県牧丘病院院長)

迫田 朋子 (研究員, 在宅ケアアライアンス)

鈴木 恵子 (言語聴覚士, 神奈川県言語聴覚士協会会長)

木下 義隆 (歯科医師, 千葉県歯科医師会)



検討会参加者： 82名

資格内訳： 医師1名、歯科医師19名、歯科衛生士42名、ST6名、栄養士5名、看護師（保健師）5名、出版社2名、研究者1名、歯科学学生1名）

所属内訳： 歯科医師会6名、医療機関9名、歯科衛生士会19名、自治体・保健所・行政設置医療センター24名、大学・研究所・他17名、JRAT2名、出版社2名、フリー3名

懇親会参加者： 17名

終了後に寄せられた意見：

- とてもよい会だった
- さまざまな職種の方のお話を聞くことができ、大変勉強になった
- 多くの方が関心があるということに驚いた、嬉しく思った
- もっとSTや栄養士と連携を組まないといけないと思った
- 宮崎の地域連携の仕組みに驚いた、関心した
- 多職種が一堂にそれぞれの経験を通して問題点をあぶり出す場は大変意義深い
- 災害時の支援に関して全くわかっておらずとても勉強になった
- 阪神淡路や東日本の時から関わっている方々の言葉は胸に滲みた

災害時の“食べる支援”における多職種連携とその目的 報告書（第一報）

発行	2017（平成29）年9月22日
編集	日本災害時公衆衛生歯科研究会
発行責任者	中久木 康一 平成28年熊本地震 日本歯科医師会 災害歯科コーディネーター 日本災害時公衆衛生歯科研究会 世話人 jsdphd-admin@umin.org

※ 本報告書に掲載された内容を引用・転載などを希望される場合は、発行責任者までご連絡ください。

